

奈良県中学校教育課程研究集会 国語部会

平成28年7月29日
奈良県立教育研究所

〈本日の内容〉

1. 奈良県学力・学習状況調査結果
2. 学習指導要領改訂の方向性
3. 単元構想について
4. 読書指導、漢字指導について

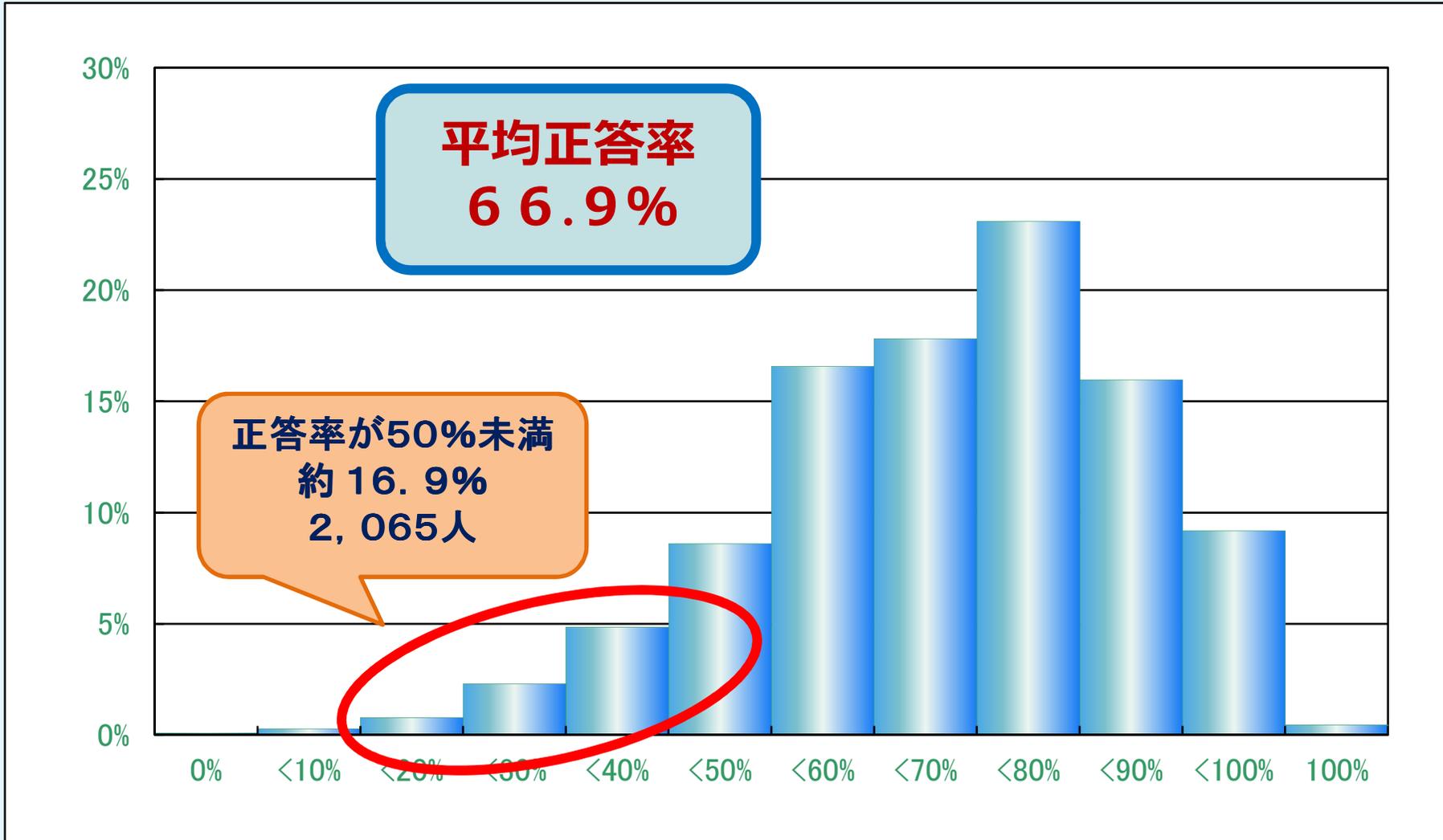
奈良県学力・学習状況調査

平成28年4月19日（火）

- 学力調査（国語・数学）
- 生徒質問紙調査
- 教員質問紙調査

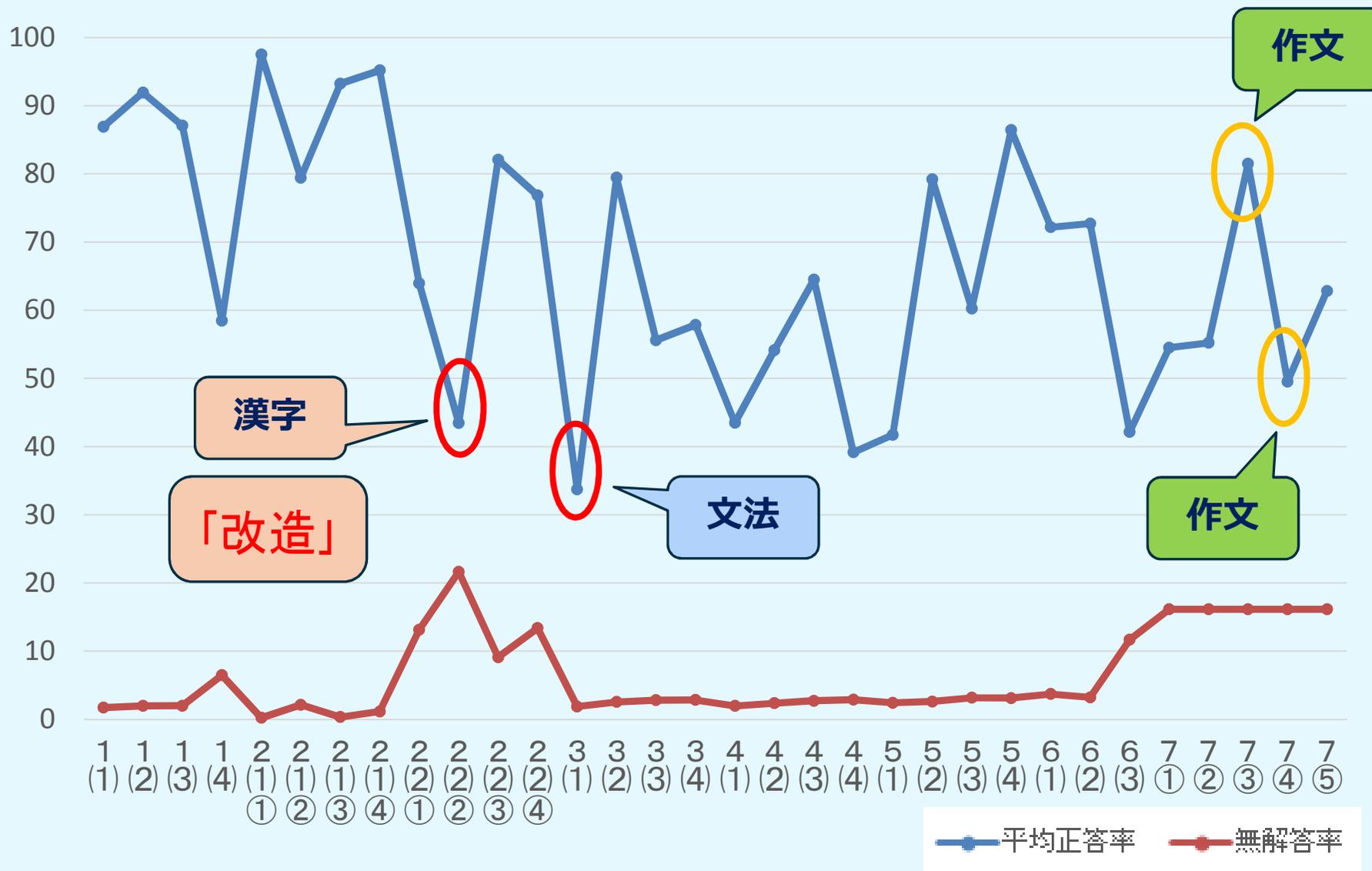
奈良県学力・学習状況調査

中学校1年 正答率度数分布



奈良県学力・学習状況調査

中学校1年 平均正答率と無解答率



中学校 1 年の結果から

文法（**3**(1)）

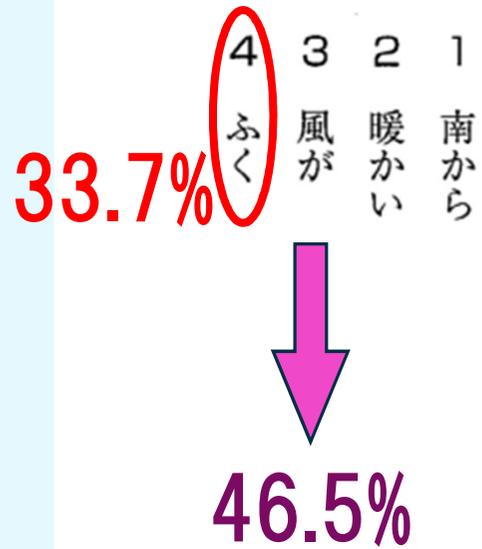
- ・ 修飾語について理解している 33.7%

※小学校学習指導要領 第3学年及び第4学年

「修飾と被修飾の関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。」

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(キ)〕

奈良県学力・学習状況調査



おだやかに、南から暖かい風がふく。

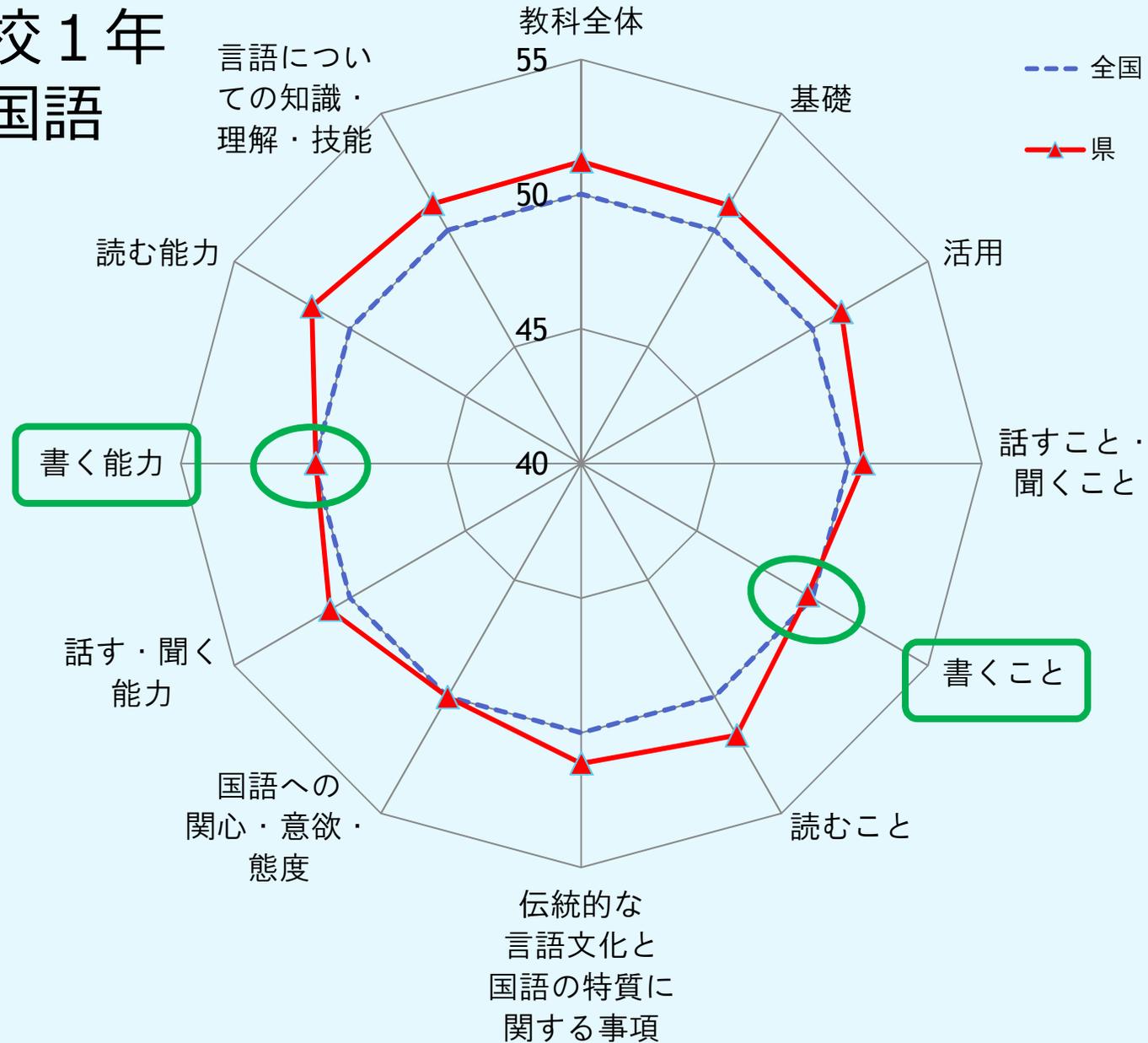
3

次の問いに答えなさい。

(1) 次の——線部の言葉は、どの言葉をくわしく説明(修飾)していますか。あとから一つ選びなさい。

奈良県学力・学習状況調査

中学校1年 国語



中学校 1 年の結果から

「書くこと」 (7)

- ・ 指定された文字数で書く 54.5%
- ・ 三段落構成で文章を書く 55.2%
- ・ 自分の立場を明確にして書く 81.5%
- ・ **自分がとった立場の理由を書く 49.5%**
- ・ 文章の内容に沿ったまとめを書く 62.8%

奈良県学力・学習状況調査

7

一年一組では、旅行に行った思い出を残す方法について意見を出し合いました。次の三つの意見を読み、下の〈注意する点〉に従って、あなたの考えを書きなさい。

〈注意する点〉

- ① 三段落構成とすること。
- ② 第一段落には、A～Cのうち、どの意見に賛成か、「あなたの立場」を書くこと。
- ③ 第二段落には、その立場をとった「理由」を、自分の体験（見たことや聞いたことなども含む）を具体的に記入して書くこと。
- ④ 第三段落には、「まとめ」を書くこと。
- ⑤ 八行以上、九行以内（二四一字以上、一八〇字以内）で書くこと。
- ⑥ 題名や氏名は書かず、原稿用紙の使い方や、誤字・脱字に注意して書くこと。

奈良県学力・学習状況調査（生徒質問紙調査）

〈肯定的な回答ほど、平均正答率が高いもの〉

下のグラフにおいて、「家で復習をしている」と答えた生徒ほど平均正答率が高く、「復習をしていない」と答えた生徒ほど平均正答率が低い。

質問に対する回答結果と平均正答率との間に、このような関係が見られるものを紹介する。

家で、学校の授業の復習をしていますか



〈肯定的な回答ほど、平均正答率が高いもの〉①

○家庭学習状況

- ・家で、自分で計画を立てて勉強をしている。
- ・家で、学校の授業の復習をしている。
- ・疑問に思ったことは自分で調べてみようと思う。

○自尊心

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。
- ・自分は、先生から認められていると思う。
- ・自分には、よいところがあると思う。

〈肯定的な回答ほど、平均正答率が高いもの〉②

○規範意識

- ・ 学校の規則を守っている。
- ・ 友達との約束を守っている。
- ・ 学校では、先生に挨拶をしている。

○社会に対する興味・関心

- ・ 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。
- ・ テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている。
- ・ 家庭で、地域や社会で起こっている問題や出来事を話題にしている。

〈肯定的な回答ほど、平均正答率が高いもの〉③

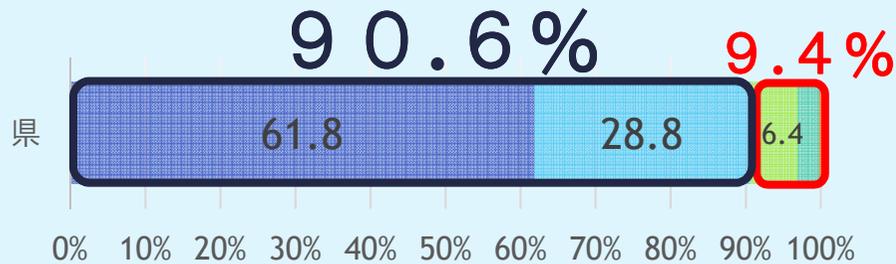
○授業において

- ・ 小学校では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う。
- ・ 小学校では、授業のはじめに目標（めあて、ねらい）が示されていたと思う。
- ・ 小学校では、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。

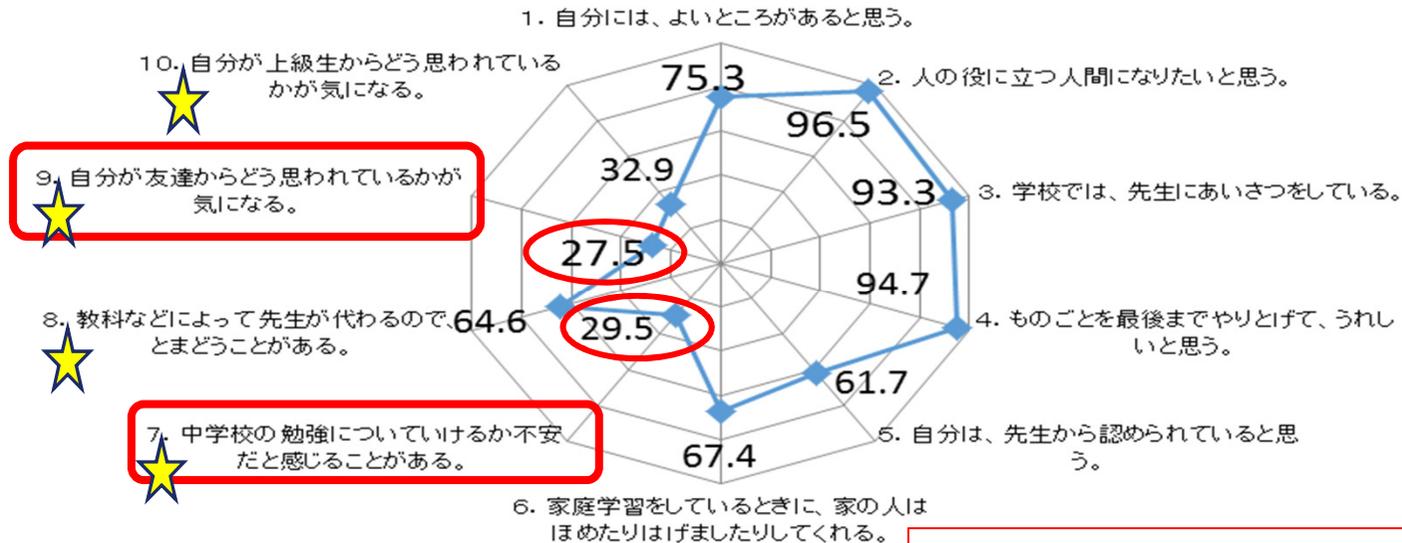
奈良県学力・学習状況調査（生徒質問紙調査）

○ 学校に行くのは楽しいですか。

○ 学校に行けない、または、行きたくないと思うことがありますか。



生徒質問紙調査（県平均）



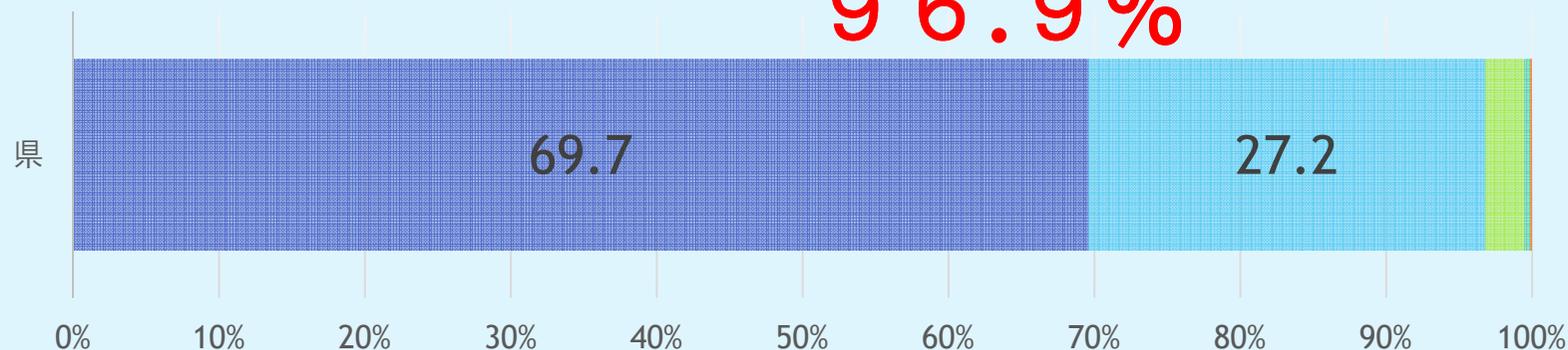
グラフの数値が高いほど、好ましい状況

※設問1～10のうち、
1～6は、「思う」、「どちらかといえば思う」と回答した生徒の割合の合計
7～10は、「どちらかといえば思わない」、「思わない」と回答した生徒の割合の合計を表す。

奈良県学力・学習状況調査（教員質問紙調査）

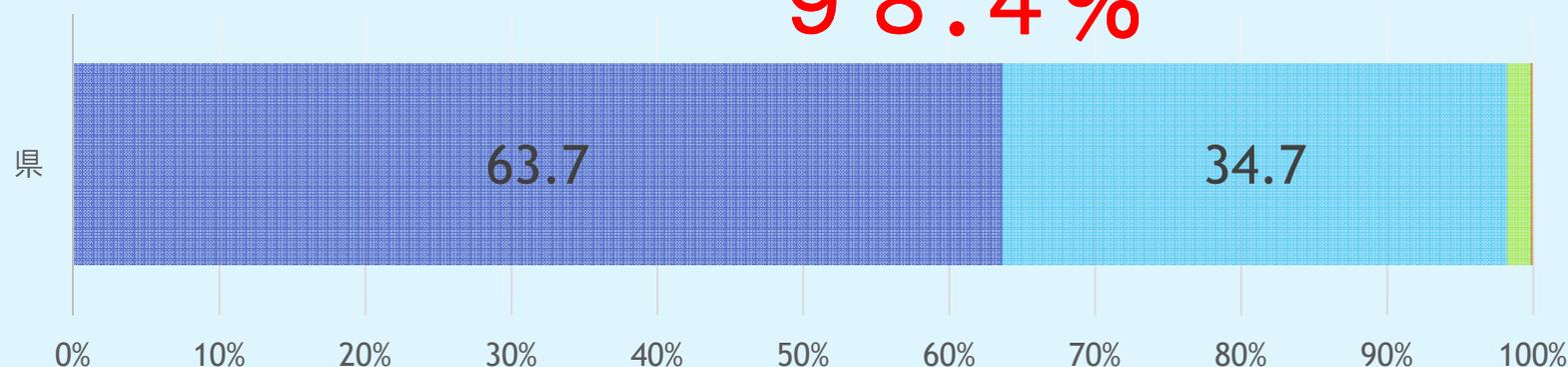
○ 生徒に学校や地域で挨拶をするよう指導していますか。

96.9%



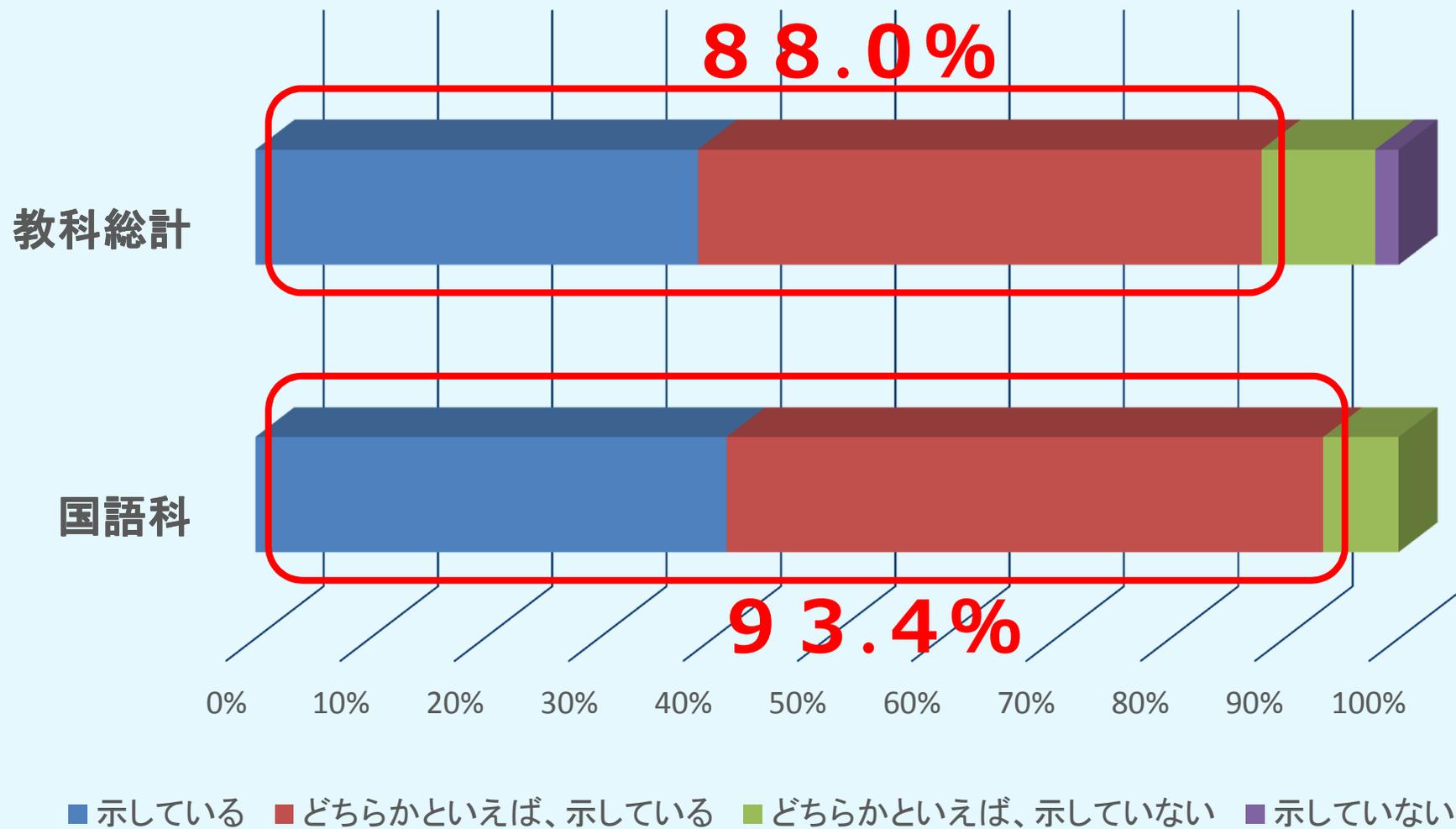
○ 学校では、生徒のよいところを見付け、褒めていますか。

98.4%



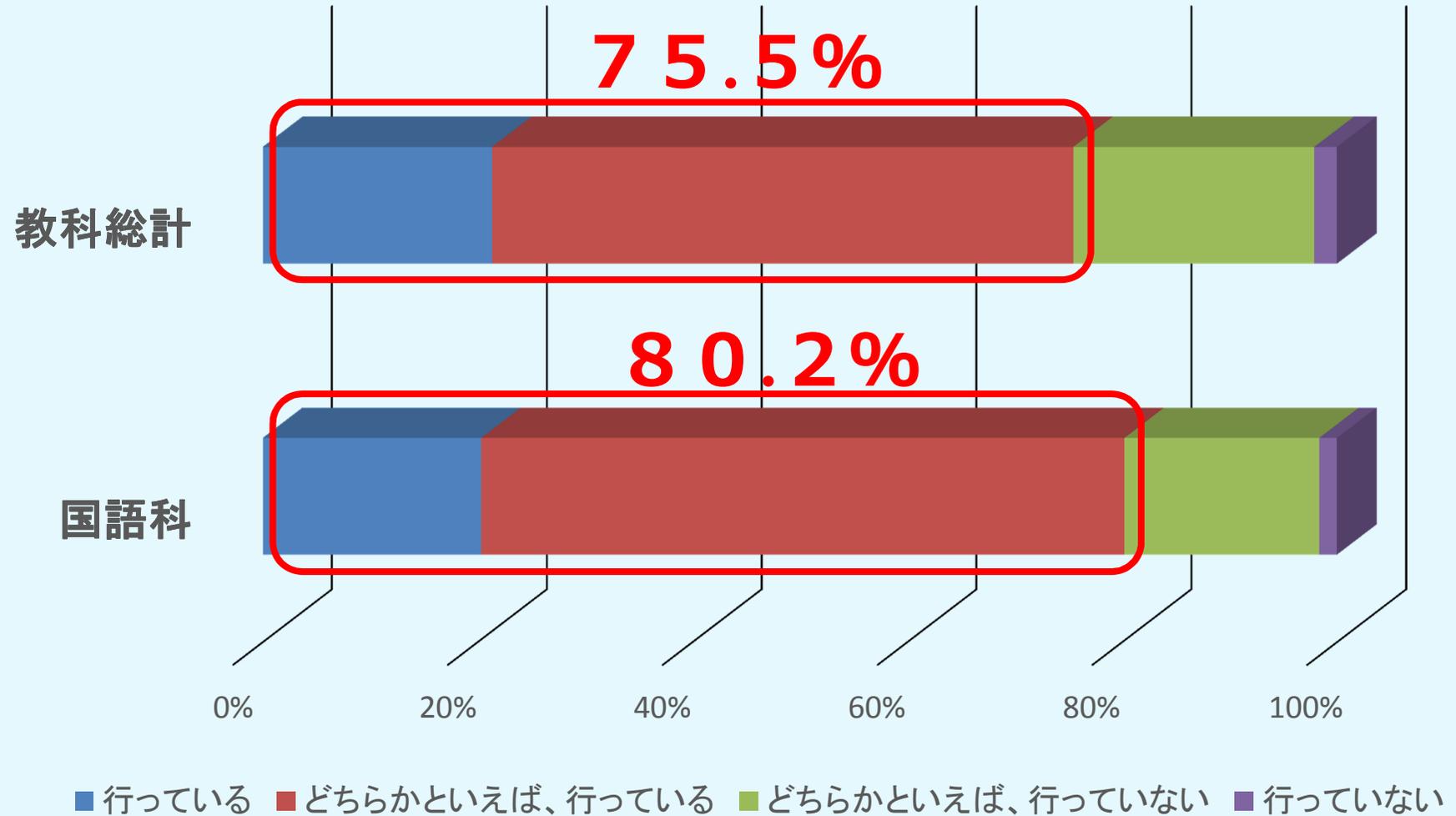
奈良県学力・学習状況調査（教員質問紙調査）

授業のはじめに目標を示していますか



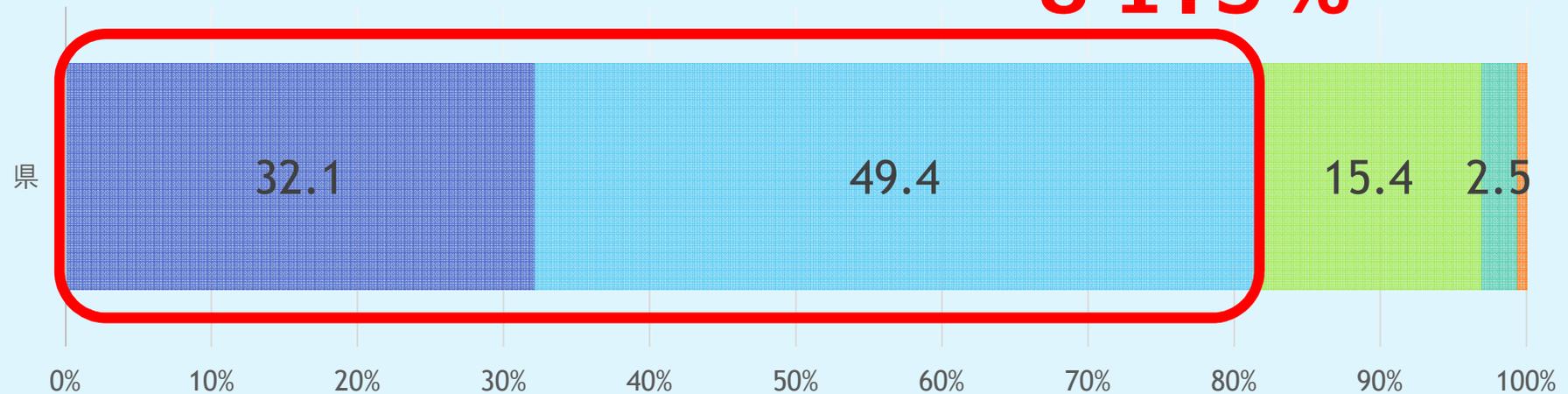
奈良県学力・学習状況調査（教員質問紙調査）

授業の最後に学習内容を振り返る活動を行っていますか

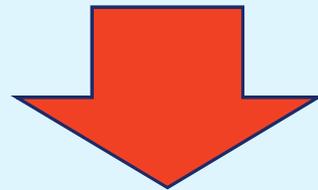


奈良県学力・学習状況調査（教員質問紙調査）

- 学校全体の学力傾向や課題について、他の職員と共有していますか。 **81.5%**



奈良県学力・学習状況調査、全国学力・学習状況調査



自校の生徒の実態を共有

教職員の一致した指導

Web評価支援システムについて

調査結果の返却の際に、各学校ごとのIDが配布されています。Webページから、それぞれの学校内の分析結果等を見ることができます。

分析結果を、今後の指導改善に御活用ください。



学力調査
+
Web評価
支援システム
||

「標準学力調査」「全国学力調査」を、ますます学力向上・指導改善にお役立ていただけるようになりました。

The advertisement features a green and white color scheme. At the top, a white box contains the text '学力調査' (Academic Ability Survey). Below it is a green plus sign, followed by a green box with a white computer monitor icon and the text 'Web評価支援システム' (Web Evaluation Support System). A green double vertical bar icon is positioned below the system name. To the right, a laptop displays a web interface. At the bottom, a photograph shows three female students in a classroom setting, looking towards the right.

Web評価支援システム

解答パターンを分析し、
実際の答案で確認できる。

算数の場合

問題文を表示。*

解答パターンと、パターンに当てはまる子どもの割合を表示。

「確認」をクリックすると実際の答案を表示することができます。

設問の領域と出題のねらいなど。

各パターンに属する子どもの割合を円グラフで表示。

● 解答のパターンごとに、実際の答案のスクリーン画像を表示します。*

・パターン1(正答)

・パターン2(誤答①)

・パターン3(誤答②)

・パターン9(その他の誤答)

拡大して表示

なんと、ここが間違いやすかったポイントね!

国語の場合

問題文を表示。*

解答パターンと、パターンに当てはまる子どもの割合を表示。

「確認」をクリックすると実際の答案を表示することができます。

設問の領域と出題のねらいなど。

各パターンに属する子どもの割合を円グラフで表示。

● 作文などの答案も確認できます。*

さらに表現力アップを目指して、読み書きの機会を増やしましょう

書きたいことのふくらませ方を練習しましょう

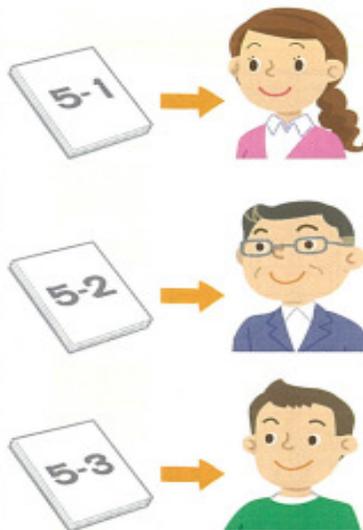
書くべきポイントを押さえて、段落構成を考えましょう

Web評価支援システムについて

学校全体、学年全体のデータ共有ができる。

紙の結果資料のみだと…

自分のクラスの結果のみの確認が多く、問題意識の共有は難しい。



Web評価支援システムなら…

学校・学年全体の分析資料も、以前の資料も全員で共有可能。



全校の結果資料をいつでも閲覧でき、カンタンに共有できます

学年・学校全体の課題を、先生方全員が把握できます

課題を共有することで、全体的な指導改善に取り組みやすくなります

Web評価支援システムについて

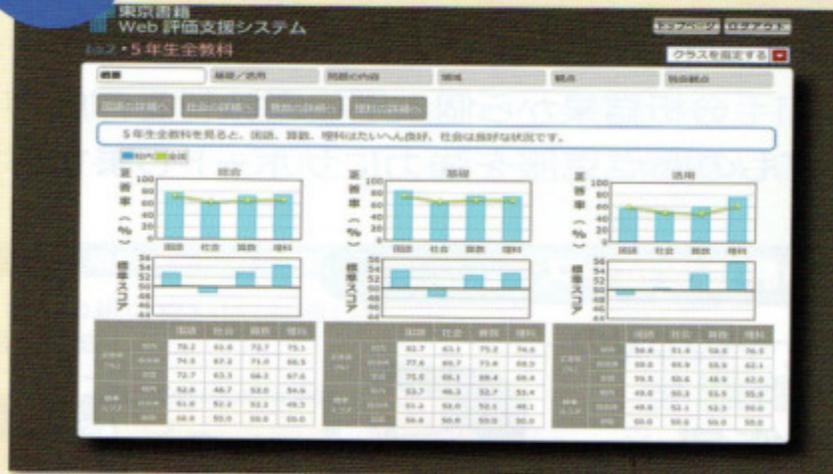
さまざまな視点、カテゴリーごとの結果を、スムーズに把握できる。

※ただし、「分析レポート」の提供など、一部機能については有料になります。利用については、各市町村教育委員会と相談の上、ご利用ください。



学年

学年ごとの総合的な達成度を把握



成果と課題を、基礎／活用、観点など、異なる切り口から分析・把握できます。

教科

教科ごとの総評、詳細分析を確認



正答率や、小問ごとの詳細な誤答分析から、各教科の成果と課題点をより掘り下げて、具体的に分析・把握できます。

2. 学習指導要領改訂の方向性

これまでの中教審の議論の経過と今後のスケジュール

- 平成26年11月 中央教育審議会総会
「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」諮問
- 平成26年12月 教育課程部会
・教育課程企画特別部会を設置
- 平成27年1月 教育課程企画特別部会（第1回）
- ↓
新しい時代にふさわしい学習指導要領の基本的な考え方や、
教科・科目等の在り方、学習・指導方法及び評価方法の在り
方等に関する基本的な方向性について、計14回審議
- 平成27年8月 教育課程企画特別部会（第14回）
教育課程部会
・「論点整理」をとりまとめ
- 平成27年
秋以降 論点整理の方向に沿って教科等別・学校種別に専門的に検討
- 平成28年 教育課程部会又は教育課程企画特別部会における議論を踏まえて、審議のまとめ
- 平成28年度内 中央教育審議会として答申

(小学校は32年度から、中学は33年度から全面実施予定。高校は34年度から年次進行により実施予定。)

初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）

平成26年11月20日 文部科学大臣

（冒頭）

今の子供たちやこれから誕生する子供たちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は、厳しい挑戦の時代を迎えていると予想されます。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく変化し、子供たちが就くことになる職業の在り方についても、現在とは様変わりすることになるだろうと指摘されています。 . . .

「文部科学省 論点整理」で検索



[会見・報道・お知らせ](#)

[政策・審議会](#)

[白書・統計・出版物](#)

[申請・手続き](#)

[文部科学省の紹介](#)

[教育](#)

[科学技術・学術](#)

[スポーツ](#)

[文化](#)

[トップ](#) > [政策・審議会](#) > [審議会情報](#) > [中央教育審議会](#) > [初等中等教育分科会](#) > [教育課程部会](#) > [教育課程企画特別部会\(第7期\)](#) > [教育課程企画特別部会における論点整理について\(報告\)](#)

○教育課程企画特別部会における論点整理について(報告)



平成27年8月26日
教育課程企画特別部会

このたび、教育課程企画特別部会論点整理がとりまとめられましたのでお知らせいたします。

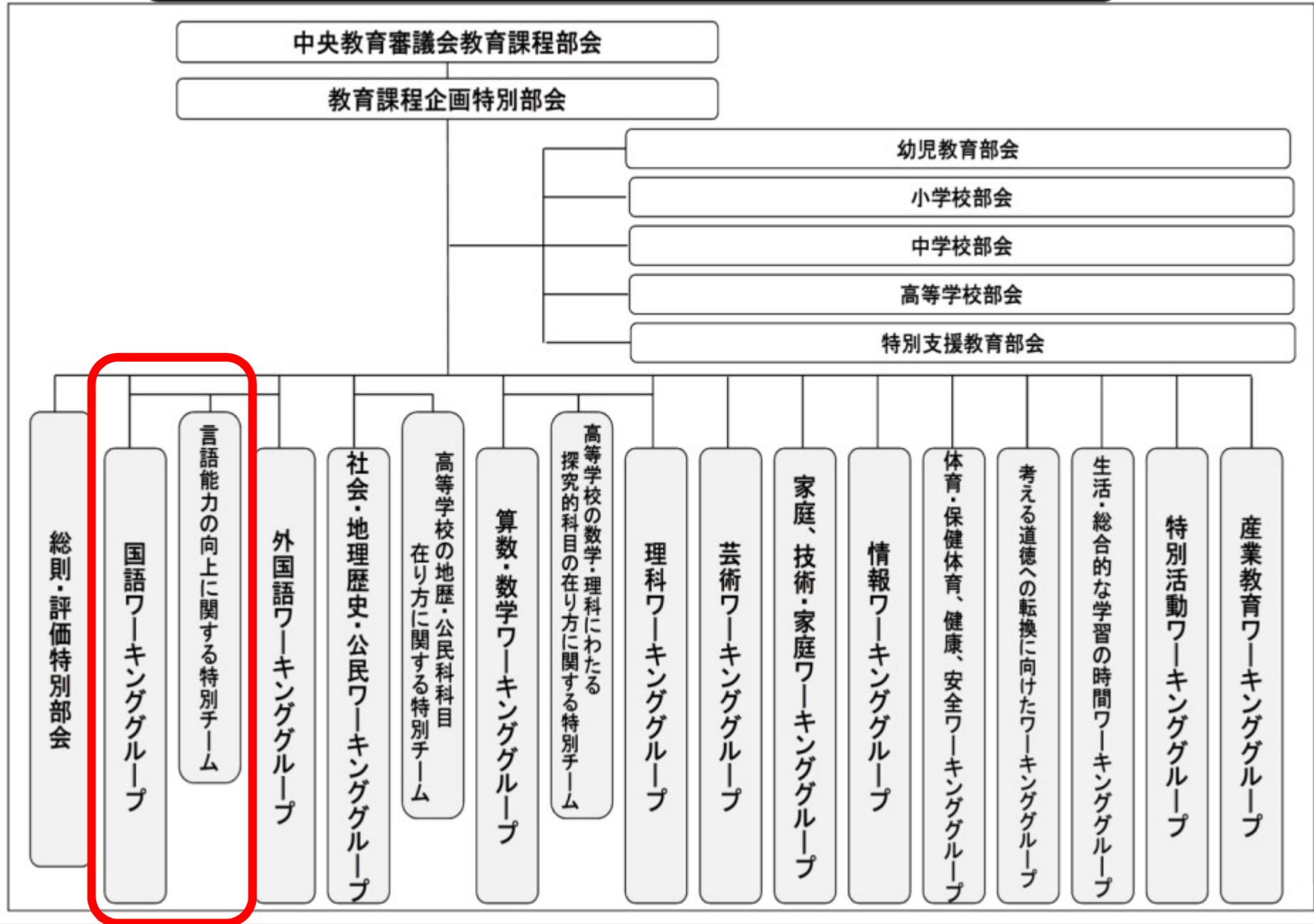
- [教育課程企画特別部会 論点整理 \(PDF:476KB\)](#)
- [教育課程企画特別部会 論点整理 補足資料\(1\) \(PDF:3636KB\)](#)
- [教育課程企画特別部会 論点整理 補足資料\(2\) \(PDF:3597KB\)](#)
- [教育課程企画特別部会 論点整理 補足資料\(3\) \(PDF:3264KB\)](#)
- [教育課程企画特別部会 論点整理 補足資料\(4\) \(PDF:3516KB\)](#)
- [教育課程企画特別部会 論点整理 補足資料\(5\) \(PDF:3488KB\)](#)

映像資料

- [学習指導要領改訂の方向性について\(※Youtube文部科学省動画チャンネルリンク\)](#)
「教育課程企画特別部会 論点整理」に関する映像資料を公開いたしました。(10月26日)

次期学習指導要領改訂に向けた検討体制

平成27年8月26日
教育課程部会了承



学習指導要領改訂のポイント(「教育の強靱化に向けて」平成28年5月10日)

急激な社会的変化の中でも、子供たちに未来の創り手となるために必要な知識や力を育むため、以下のような方向性で学校の教育課程を充実。

- 「ゆとり教育」か「詰め込み教育」かといった、**二項対立的な議論には戻らない**。知識と思考力の双方をバランスよく、確実に育むという基本を踏襲し、**学習内容の削減を行うことはしない**。

高校教育については、些末な事実に知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

- 学校教育のよさをさらに進化させることを目指し、「学校教育を通じてどのような力を育むのか」を明確にして育成する。

「**アクティブ・ラーニング**」の視点は、**知識が生きて働くものとして習得され、必要な力が身に付くことを目指すもの**。**知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善を行う**。

①対話的・②主体的で③深い学び、の三つが「アクティブ・ラーニング」の視点。特に「深い学び」こそが質の高い理解に不可欠。

- こうした方向性のもと、必要な教科・科目構成等の見直しも行う(小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共(仮称)」等の新設など)。

**本年度中に学習指導要領を改訂し、
2020年から順次実施。**

高等学校は来年度改訂

学習指導要領改訂の方向性（案）

平成28年5月23日
教育課程部会
総則・評価特別部会
資料3-1

新しい時代に必要な資質・能力の育成

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な知識や力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要な資質・能力を踏まえた 教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

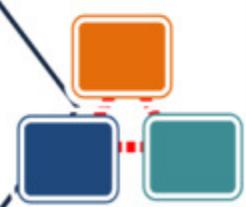
どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる
資質・能力を育成

知識の力を削減せず、質の高い
理解を図るための学習過程
の質的改善

深い学び
対話的な学び
主体的な学び



※高校教育については、些末な事実に基づく知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。